

## 第 10 回子育て・教育部会 主な意見

## 《施設一体型義務教育学校（小中一貫校）について》

## ●施設一体型義務教育学校とすることへの不安・疑問

- なぜ施設が一体になったら教育内容が充実するのか、施設一体型義務教育学校にしなくてはいけないのか、具体的なことが分かりづらい。
- 例えば各小学校 2 クラスずつあったものが（施設一体型義務教育学校になった場合）3 クラスになり、子ども 1 人当たりの教員数が少なくなるとは、施設一体型義務教育学校とすることにはメリットがないように思える。
- 少人数で先生が 1 人 1 人をみてくれる今の小学校に不満はなく、このままで良い。

⇒小中がひとつになることで子ども達に関わる大人の人数が増えること、各小学校の良い取組みを両方経験できることなどの充実ポイントがある。また、施設一体型義務教育学校となった際の教員数やメリット、デメリット等については再度整理してお伝えする。  
(市)

- 中学校に進学する際に違う方向に行ってしまう子どももいるように思う。小・中学生が常に一緒に当たり前という環境になれば、状況が緩和され良い変化につながるかも。そういった化学変化が起こり子ども達が中学校を卒業する時により良い状態で卒業し、将来大人になって地域に帰ってきてくれる等、地域にも良い方向に動いてほしい。
- このまま子どもが減っていけば、施設一体型になったとしても、結局 1 クラスになり意味をなさないのでないか。

⇒今年度の人数で幸小学校と池上小学校が一緒になった場合は、全学年で複数学級を確保できる見込み。ただ児童数は減少傾向であるため、よりよい教育環境をつくり、波及効果として「地域に戻って子育てをしたい」と思えるような学校づくりを進め、人数確保につなげていきたい。また、まちづくり構想の議論の中で、空いた土地に住宅を建てるなど、教育内容だけでなく空いた土地の活用によって、人口を増やしていきたい。(市)

- 校区のイメージが悪い現状に対して、どのように前を向いていくか、一つ一つの課題を新しい学校でどう改善していくかという話に時間を使えたら。

## ●施設一体型義務教育学校をきっかけとした魅力ある学校づくり

- 学校教育の中身や子ども達をどうしていくかなど、学校に魂を入れていくのは地域であり、どんな学校が必要かという議論をする方が良いと思う。
- この場のように子ども達の教育について話し合える地域があることはプラスであり誇っていいことだと思う。
- 施設一体型義務教育学校を土台として、皆の要望を盛り込んだ、多数が納得できる学校づくりを進めていけば、今心配なことも解決されていき、まちづくりの柱になるのでは
- この校区は今変わるチャンス。これからの子ども達が誇れる学校をつくるため、今回をきっかけに地域・行政・学校・保護者・地域全員で考えてメリットをつくれば、色々と考えていく中で地域の力が付き、活性化することで、良い学校をつくっていかれると思う。

- 魅力ある学校づくりの前提として、校区の問題と、新しい校舎・施設を建ててもらえない限りは夢のある魅力ある学校づくりはできないと思う。周辺の校区からも目指されるような魅力ある学校づくりを考えていけたら。

### 《保護者への情報提供・意向把握について》

- 施設一体型義務教育学校について、具体的に分かっていない保護者が多い状況。
- アンケートなどの意向を把握する方法を検討するべき。
- 今までは市主体で各校・各園に説明に行っていたが、部会メンバーが説明に行ってみてもいいのでは。
- 説明会を行うにしても、興味を持ってもらえる伝え方が必要。

### (まとめ)

- 子育て・教育環境については「地域一丸で子育て」「学校教育の魅力化」が大きなキーワード。その中で、施設一体型義務教育学校を土台に新たな魅力ある学校づくりを進めては、という意見が出た一方、不安や疑問が解消されないという意見もあった。また「開校前から」できることに取組んでいく、ということもテーマとして出てきていた。これらの議論を踏まえて、4月に部会としてのとりまとめを整理する予定。